

●オリジナル作品の制作背景

"The Third Part of the Night"がパリで公開された時、プロデューサーのアルビナ・デュ・ブワルゥレは、この映画に感銘を受けズロウスキーに、クリストファー・フランクの小説"La nuit americaine"(アメリカの夜)の映画化を提案した。この小説は、1972年にルノード賞を受賞した。映画化に際し、原作のタイトルは、これの1年前に公開されたフランソワ・トリュフォー監督の「アメリカの夜」と混同されないように変更された。原作の複雑さを表現するのはほとんど不可能と考えたズロウスキーとフランクは冒頭の話を組み立て直した。□

●オリジナル作品出演者

主人公ナディーヌを演じたのはロミー・シュナイダー。彼女なしには、この映画は作られなかったであろうと言われている。脚本をとっても気に入った彼女は劇中ほとんどをノーメイクで演じた。ズロウスキー監督の言葉、「彼女に才能以上のものを感じて私はロミー・シュナイダーを選んだのです。そして並々ならぬ人間関係が築かれていったのです。ナディーヌの性格は大変難しく、繊細で、また同時に活動的でもあり強靱でもあります。それ自体が真に強靱であることの証であるのは疑わしく弱点ともなる一面です」ロミー・シュナイダーは本作で彼女のキャリアにおいて最初のフランスのアカデミー賞とも言えるセザール賞を受賞。

ナディーヌの夫（ジャック・シュバリエ）を演じるのはフランスのポップス歌手ジャック・デュトロン。彼はこれまでいくつかの短編映画に出演していたが、今回初めて長編映画での大役に挑んだ。「悲劇的な役どころを演じることに躊躇は全くなかった。この役の男には終始興味を感じていた。彼はとても強く、また頑固で、並外れて知的でもある。自分が何を望んでいるかを完全に判っている。そして、死に取りつかれている。きっと僕は彼のように生きられないと思う。少なくとも今のところはね」テレマ誌のインタビューでデュトロンはこう答えている。彼は後のズロウスキーの映画「私の夜はあなたの昼より美しい」にも出演している。

この映画でキーパーソンとなるカール・ハインツ・ジマーを演じるのは クラウス・キンスキー。再び監督の言葉、「キンスキーはパーフェクトで、またとても紳士で、物腰も柔らかく本当に素晴らしい俳優だ。彼の自伝には、僕についての最悪の事は、僕がちょっとした聖職者のようでモラリストで、そのために僕のことを嫌っていると書かれていたが、僕達は10年来の友達なんだ。」□